令和８年　最上町新春賀詞交換会

新春に誓う、地域の結束と最上町の未来

令和８年最上町新春賀詞交換会が、１月８日（木）、中央公民館大ホールにおいて開催されました。当日は、加藤鮎子衆議院議員をはじめ、県議会議員、最上総合支庁長など多くの来賓を迎え、会社経営者や各種団体の代表者など93名が出席し、新しい年の幕開けを祝いました。

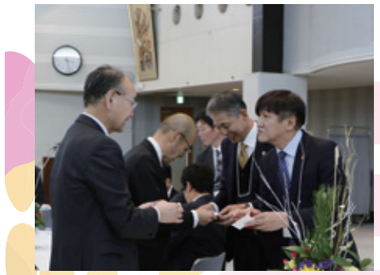
式では、主催者を代表して髙橋町長ともがみ南部商工会の佐藤会長が新春の挨拶を行いました。髙橋町長は、地域の利便性向上や産業振興に欠かせない高規格道路の早期実現に向けた取組みをはじめ、一昨年発生した未曾有の豪雨災害からの一日も早い復興に向け、町として着実に歩みを進めていく決意を述べました。佐藤会長からは、物価高騰や人手不足など、厳しさを増す経済問題に触れつつ、地域経済を支える企業や事業者への支援、官民連携の重要性について話がありました。

続いて行われた基調講演では、株式会社ＤＭＣ天童温泉旅行事業部の鈴木誠人氏が登壇し、「地元民が主導する地域づくり～山形ならではの特別な体験の創出～」と題して講演を行いました。講演では、行政がすべてを担うのではなく、地域に暮らす人々が主体となってアイディアを出し行動し、行政はそれを支援する役割を担うことの大切さが語られました。

また、観光の視点からは、ものづくりや自然、文化といった身近な地域資源に目を向け、それらを丁寧に磨き上げることで、訪れる人にとって価値ある体験につながることが紹介されました。自分の町だけにとどまらず、周辺地域の魅力も取り込みながら連泊や再訪へと結び付けていく取組みは、最上町にとっても多くのヒントがつかめる内容となりました。

懇親会では、講演内容に感銘を受けた参加者が講師と積極的に意見交換を行う姿が見られました。参加者の一人は、「米国のメディアで『２０２６年に行くべき世界の旅行先25選』に、日本で唯一山形県が選ばれたと聞いているが、今日の講演を通して改めて山形県の魅力を再発見した」と話していました。

新年の賀詞を交わしながら交流を深め、地域の結束とさらなる前進を確かめ合う、実り多い新春の催しとなりました。


賀詞交換会式典の様子

鈴木（すずき） 誠人（まこと） 氏

株式会社 DMC 天童温泉 旅行事業部 部長。

高校３年時の東南アジアひとり旅をきっかけに観光業界を志し、旅行会社勤務を経て２０１６年に山形へ移住。国内４７都道府県、海外２２カ国を巡った経験を活かし、山形の自然や文化、ものづくりなど地域資源を活用した体験型ツアーを企画・運営している。

これまでに１００を超えるツアーを手がけ、天童温泉を拠点とした地域周遊型観光を推進。２０２５年には Leave No Trace Level １インストラクターを取得し、持続可能な観光にも力を注いでいる。

山形ならではの特別な体験づくりについて語る講師の鈴木氏

地域おこし協力隊通信

こんにちは！
今月号は川原田がお伝えします！

新年あけまして おめでとうございます！

今年度は午年。それにちなんで前森の乗馬体験の写真を掲載します。

新たな年を迎え、皆さまはいかがお過ごしでしょうか。

２０２６年の干支は午年。前森高原や富山馬頭観音など、馬にゆかりの深い最上町で新年を迎えられることを、大変うれしく感じています。

私事ではありますが、地域おこし協力隊としての任期も、気づけば折り返しを迎えました。今年は、協力隊として関わるのが最後となるイベントやお祭りもあるかと思うと、少し寂しさを感じる一方、これまで以上に一つひとつの活動を大切にしたいという思いが強くなっています。

これまでの経験を生かしながら、本年も町の魅力や観光情報を分かりやすく、丁寧に発信してまいります。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

活動がわかる
SNS

MOGAMIMACHI_KANKOKYOKAI

集落支援員だより

向町地区集落支援員
今井　正明

宮城県白石市斎川地区公民館へ先進地視察研修
～公民館を核とした斎川の地域づくりについて～

向町地区コミュニティ推進会議の先進地視察研修として、令和７年11月25日、浅井会長ほか７名で宮城県白石市斎川地区公民館を訪問しました。

研修では、斎川まちづくり協議会の佐藤幸枝事務長から「公民館を核とした地域づくり」についてお話を伺いました。斎川地区は世帯数３４３戸、人口７８５人、高齢化率50.４％の地域で、小学校の統廃合をきっかけに住民主体のまちづくりを進めてきたそうです。

住民アンケートを基に若者会議や中堅世代会議を開き、若い世代の意見を積極的に取り入れてきた点が印象的でした。地区の成り立ちは異なりますが、若者が参加しやすい仕組みづくりやＳＮＳを活用した情報発信など、多くの学びがあり、今後の活動に生かしていきたいと感じました。